

評価機構

2018

3

月号

NEWS LETTER

特集

産科医療補償制度の 運営状況等について



人の安心、医療の安全 JQ
公益財団法人 日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care

「患者満足度・職員やりがい度活用支援」参加受付中 (評価事業推進部)

病院機能評価事業では、「評価・教育・支援」を事業の軸に据えており、医療の質改善の支援を行うことを目的に、平成30年4月より、「患者満足度・職員やりがい度活用支援」を開始します。患者満足度調査や職員満足度は、質改善のアウトカム指標の一つであり、病院機能評価の評価の対象にもなっています。調査結果の分析を踏まえた、病院の皆様の改善活動を支援します。

実施する内容は以下の4点です。

1. 簡便でリアルタイムな集計により、時系列の変化からタイムリーな対策を検討できる「満足度調査システム」
2. 病院間の比較から自院の強み・弱みを把握できる「ベンチマークシステム」
3. 多くの事例を共有し、問題点へのアプローチ方法を考えるための「活動共有の場」
4. 事例の蓄積から開発された「問題解決モデル」(予定)

平成28年度は40病院、平成29年度は182病院が試行に参加しました。今後も日本全国の病院を対象に実施していきます。「患者が安心して医療を享受でき、職員が働きやすく、地域に信頼される病院づくり」のためにぜひご活用ください。

【参加費用】

認定病院：80,000円(税別)

未認定病院：120,000円(税別)

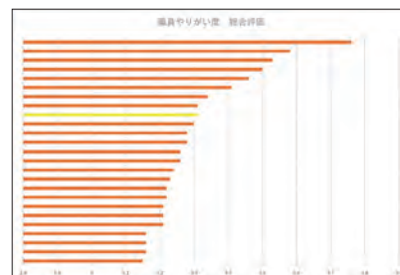
【詳細・お申込についてはこちらから】

<https://www.seminar.jcqhc.or.jp/public/seminar/view/1242>

【お問い合わせ先】

評価事業推進部 企画課(担当 二宮・工藤)

Tel: 03-5217-2326 E-mail: jq-manzokudo@jqhc.or.jp



ベンチマーク結果(イメージ)



2017年7月開催セミナーの様子

「補償申請期限に関する周知」の協力をお願い (産科医療補償制度運営部)

産科医療補償制度では、皆様のご協力もあり、これまでに約3,000件の補償申請をいただきました。一方、現在でも、「医療機関でポスターを見て制度のことを知った」とのご意見が寄せられることもあるため、補償申請期限を過ぎたために補償申請ができなくなるといった事態が生じないように、引き続きのご協力をお願いいたします。本制度では年2回、全国の障害児通所・入所施設、医療機関、自治体等にチラシ・ポスターをお送りしていますので、ご活用ください。

また、皆様の周り(特に小児科・リハビリテーション科等)で、補償対象と考えられる児がおられましたら、本制度専用コールセンター(0120-330-637)を保護者へ案内していただきますよう、ご協力をお願いします。

補償申請の詳細は、本制度のホームページをご覧ください。

<http://www.sanka-hp.jcqhc.or.jp/application/sphere.html>

補償申請期限に関するご案内

「Mindsフォーラム2018」の開催報告 (EBM医療情報部)

1月13日(土)にMindsフォーラム2018「総合診療・一般診療、そして臨床研修でのガイドライン活用」を開催しました。参加者は159名で、医師だけでなく幅広い職種の方にご参加いただきました。

当日は、シンポジストの先生方に、以下のご講演をいただきました。

- ・目々澤 肇 先生「一般診療における診療ガイドラインの意義」
- ・秋下 雅弘 先生「高齢者医療における診療ガイドラインの活用」
- ・徳田 安春 先生「総合診療や一般診療の場面でのガイドライン活用
～ Choosing Wiselyの視点より～」

討論の時間では、会場にお越しいただいた先生方からもコメントを頂戴し、“患者と医療者の協働意思決定に向けて”、また、“目の前の患者に最善の診療をいかに提供できるか”、さまざまな視点から議論いただきました。

本フォーラムの詳細は、Mindsガイドラインライブラリをご覧ください。

https://minds.jcqhc.or.jp/activity/annual_report/T0012388



医療安全情報の公表 (医療事故防止事業部)

医療事故情報収集等事業では、以下の医療安全情報を提供しました。

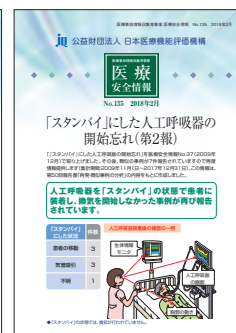
- No.134「清潔野における消毒剤の誤った投与」(1月)
- No.135「スタンバイにした人工呼吸器の開始忘れ(第2報)」(2月)

詳細は、ホームページをご覧ください。

<http://www.med-safe.jp/>



No.134 (1ページ目)



No.135 (1ページ目)

患者安全の取り組みに関するオンラインセミナーの開催報告 (総務部)

1月22日(月)にオンラインセミナーを開催し、教育研修事業部長の栗原が「認定病院の患者安全推進に係る取り組み」について講演しました。ハイリスク薬の管理、CVCの安全な実施、転倒転落や院内自殺の予防など、患者安全を推進するために認定病院患者安全推進協議会が実施している取り組みを紹介しました。録画および講演資料は以下のウェブサイトをご覧ください。

<https://isqua.org/education/non--english-language-content/japanese-webinars>



産科医療補償制度の 運営状況等について

産科医療補償制度運営部 部長
内田 久

1. 産科医療補償制度とは

産科医療補償制度は、分娩に関連して発症した重度脳性麻痺児とご家族の経済的負担を速やかに補償するとともに、原因分析を行い、同じような事例の再発防止に資する情報を提供することなどにより、紛争の防止・早期解決および産科医療の質の向上を図ることを目的とした制度です。

2. 分娩機関の制度加入状況

2018年1月末時点の全国の分娩機関（病院、診療所、助産所）の制度加入状況は、下記の表のとおりです。

分娩機関数	加入分娩機関数	加入率 (%)
3,255	3,252	99.9

分娩機関数は日本産婦人科医会および日本助産師会の協力等により集計

3. 周知・広報の取組み

産科医療補償制度の補償申請期限は児の満5歳の誕生日までとなっています。このため、補償申請期限を過ぎたために補償申請ができなくなるといった事態が生じないよう、児の保護者等に制度の内容をお伝えするために周知に取り組んでいます。具体的には、全国の障害児通所・入所施設、医療機関、自治体等へチラシ・ポスターを送付するなどの周知を継続的に行っています。

また、本制度の運営状況や特集等を掲載した「産科医療補償制度ニュース」を引き続き発刊し、広く配布しています。

そのほか、今年度は、一部市区のホームページに本制度の案内の掲載および、新たにコメディカル（メディカルスタッフ）の方への周知に取り組んでいます。



産科医療補償制度ニュース

4. 審査および補償の実施状況

本制度を開始した2009年以降の審査件数および審査結果の状況は、下記の表のとおりです。

(2018年1月末現在)

	審査件数	審査結果			
		補償対象	補償対象外		継続審議
			補償対象外	再申請可能*	
総計	3,013	2,262	691	53	7

※審査時点では補償対象とならないものの、将来所定の要件を満たして再申請された場合、改めて審査するもの

(参考) 審査が終了した児の生年ごとの審査件数および審査結果

(2018年1月末現在)

児の生年	審査件数	審査結果	
		補償対象	補償対象外
2009年	561	419	142
2010年	523	382	141
2011年	502	355	147

また、補償請求者の利便性向上を図ること、および統一した基準で診断が行われることを目的として、「診断協力医」を登録しています。診断協力医への登録数は、2018年1月末現在503名（小児神経専門医286名、身体障害者福祉法第15条指定医317名、両方の資格を有する医師100名）となっており、本制度のホームページにおいて所属医療機関名と医師名を公表しています。

5. 原因分析の実施状況

原因分析は、責任追及を目的とするものではなく、医学的観点から脳性麻痺発症の原因を明らかにするとともに、同じような事例の再発防止策等を提言するために行っています。

補償対象と認定した全事例について、原因分析を行うこととしており、2018年1月末までに1,678件の原因分析報告書を保護者と分娩機関に送付しています。また、本制度は公的性格を有するため、高い透明性を確保することを目的として、個人情報および分娩機関情報の取扱いに十分留意の上、原因分析報告書要約版を本制度のホームページに掲載しています。

(<http://www.sanka-hp.jcqh.or.jp/documents/analysis/index.html>)

6. 再発防止の実施状況

本制度では、同じような事例の再発防止および産科医療の質の向上を図ることを目的に、「再発防止に関する報告書」を毎年一回公表しており、「第8回 再発防止に関する報告書」を2018年3月に公表する予定です。今回の報告書では、「遷延分娩について」「胎児心拍数の判読について」のテーマに沿った分析や、これまでに取り上げたテーマの分析対象事例の動向について分析を行っています。また、本制度の開始年である2009年出生児の原因分析報告書がすべて公表されたことから、2009年出生児を括り出した分析も行っています。

2017年4月に改訂された「産婦人科診療ガイドライン産科編2017」においては、「再発防止に関する報告書」が、わが国の脳性麻痺発症の要因を分析している貴重な資料と位置付けられ、下表のようにガイドラインの解説等において参考とされています。

産婦人科診療ガイドライン産科編2017において参考とされた報告書等とその内容

ガイドラインの解説	参考とされた報告書等とその内容
常位胎盤早期剥離の診断・管理は？	脳性麻痺事例の胎児心拍数陣痛図
緊急時に備え、分娩室または分娩室近くに準備しておく医薬品・物品は？	第3回 報告書 「分娩中の胎児心拍数聴取について」
帝王切開既往妊婦が経膈分娩 (TOLAC) を希望した場合は？	第4回 報告書 「子宮破裂について」
子宮底圧迫法 (クリステル胎児圧出法) 施行時の注意点は？	第4回 報告書 「クリステル胎児圧出法について」
分娩誘発を目的とした頸管熟化・拡張法の注意点は？	第3回 報告書 「臍帯脱出について」

このほか、より専門的な分析を行うために設置した「再発防止ワーキンググループ」で取りまとめた論文が、2018年1月にオープンアクセスジャーナル「Wiley」に掲載されました。

今後、医学誌のJOGR (THE JOURNAL OF Obstetrics and Gynaecology Research) に掲載される予定です。また、和文概要についても後日、本制度のホームページに掲載いたします。

論文掲載先URL <http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/jog.13555/epdf>



再発防止に関する報告書



産婦人科診療ガイドライン

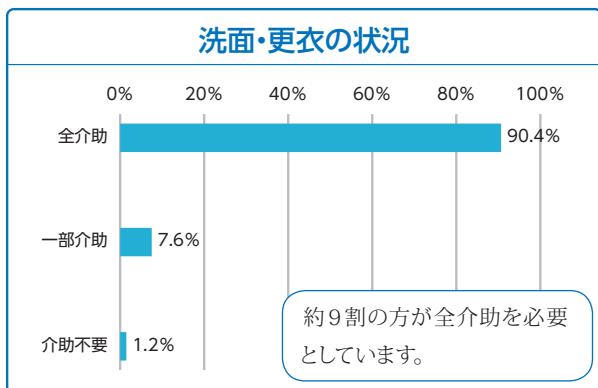
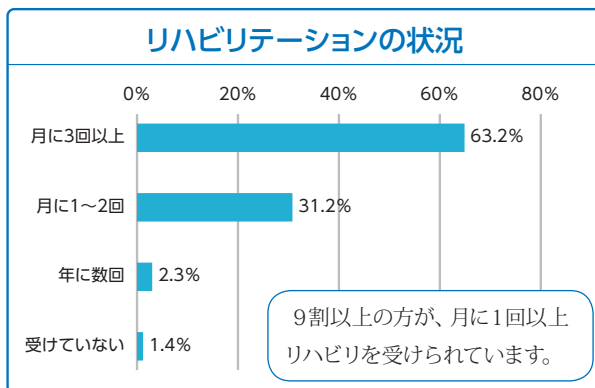
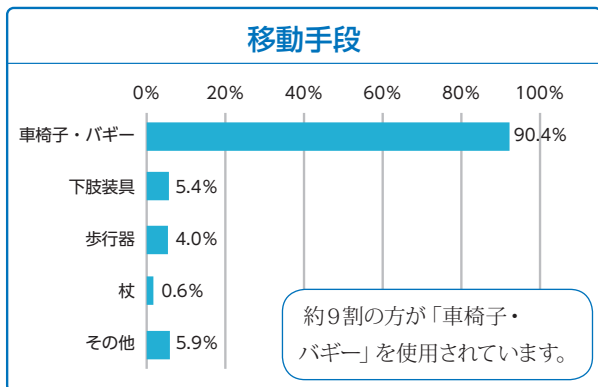
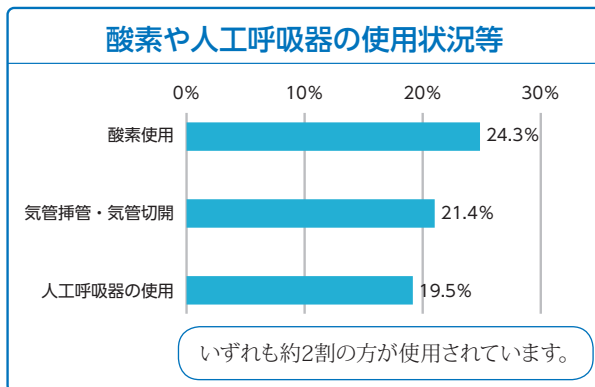
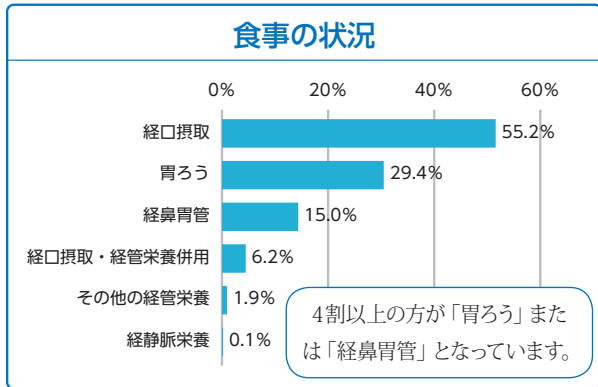
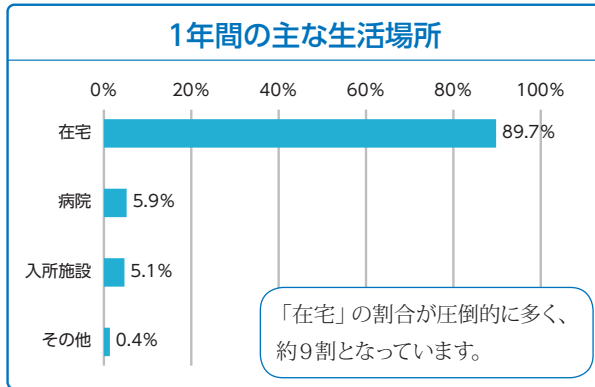


Wileyに掲載された論文

7. 本制度の補償対象となった脳性麻痺児の看護・介護の状況について

本制度の補償対象となった重度脳性麻痺児について、看護・介護の状況を取りまとめましたのでご紹介します。脳性麻痺児に関するデータが少ない中、貴重なデータとなっています。

(調査対象 1,282件(2016年12月末時点))



※本データは、2016年12月末までに提出された補償分割金請求用診断書のうち、診断日が2016年1月～12月までの1,282件を対象に、補償分割金請求用診断書に記載されている項目を集計したものです。
 ※複数の箇所に回答があった場合は、いずれも集計対象としているため、割合が100%になっていない場合がある。
 ※回答がなかった場合は、対象件数1,282件には含めているが、各項目の件数には含めていない。

詳細は、本制度のホームページに掲載している「第36回産科医療補償制度運営委員会(2017年2月1日開催)の会議資料」の18～23ページをご参照ください。

(http://www.sanka-hp.jcqh.or.jp/documents/committee/obstetric_meeting_36.pdf)

Information

各イベントの申し込み方法、詳細については評価機構のホームページのイベント情報をご覧ください。開催日の概ね2か月前よりお申し込みの受付を開始します。

<https://jqcqh.or.jp/> 日本医療機能評価機構 ▶ ホーム ▶ イベント情報

イベント情報 3月～5月

3月	1日	患者満足度・職員満足度調査活用支援セミナー
	3・4日	第1回医療安全マスター養成プログラム(3・4日目)
	10日	患者安全推進全体フォーラム(PSP)
	13日	第5回特定機能病院管理者研修
	18日	医療対話推進者養成セミナー 継続研修
5月	23日	医療対話推進者養成セミナー 継続研修
	24日	第1回病院機能改善支援セミナー(福岡開催)

詳細は順次掲載されるホームページをご覧ください。

認定病院の改善事例紹介シリーズ「Improve」のご案内

認定病院の改善事例紹介シリーズ「Improve」(リーフレット)を発行しています。

今年度は「患者中心の医療」をテーマに、病院機能評価を活用して改善に取り組んだ病院の事例を紹介しています。同封したVol.12では、慶應義塾大学病院取材しました。大学病院という大きな組織が、病院機能評価受審を通して患者目線の医療の実践を目指した取り組みや工夫を紹介しています。

今後の企画の参考のため、アンケート(表紙カラーと同じ水色の用紙)にもご協力を宜しくお願い申し上げます。



バックナンバーはホームページに掲載しています。
<https://www.jq-hyouka.jqcqh.or.jp/tool/improve/>

- Vol.11 社会医療法人博進会 南部病院 (一般病院1)
—まなびあい、たすけあう ～病院内から地域へ～ (平成30年1月発行)
- Vol.10 特定医療法人 自由会 岡山光南病院 (リハビリテーション病院)
—患者さんに「安心」を届けるトータルマネジメント— (平成29年7月発行)
- Vol.9 彦根市立病院 (一般病院2)
—病院主導のマニュアル活用で地域貢献を— (平成29年4月発行)
- Vol.8 医療法人成精会 刈谷病院 (精神科病院)
—ゆたかな心で地域とつながり、癒やす。寄り添う。守る。育む。— (平成29年1月発行)

患者安全推進ジャーナルのご案内

評価機構の認定病院患者安全推進協議会が発行している機関誌です。No.51が3月下旬に発行されます。No.51の特集は「事務職に求められる医療安全へのかかわり」です。

バックナンバーの一部は、認定病院患者安全推進協議会のホームページで公開しています。

●会員病院(1,000円+税)

会員病院には毎月3冊を無料でお送りしています。追加購入をご希望の場合は、認定病院患者安全推進協議会のホームページより会員サイトにログインのうえ、お申し込みください。会員価格となります。

●会員外病院(3,000円+税)

当機構ホームページ>出版・ダウンロードからお申し込みください。

病院機能評価データブック(平成28年度)のご案内

病院機能評価を受審した病院の現況調査データや評価結果等を取りまとめた年報です。3月下旬に病院機能評価事業のホームページに掲載予定です。

自院の位置づけの確認やC評価(H25年度版以降)が多く付される項目の確認などにご活用ください。

バックナンバーはホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

<https://www.jq-hyouka.jqcqh.or.jp/tool/databook/>

編集後記

今号が本年度最後の号となります。ご愛読ありがとうございました。いよいよ4月からは、機能種別版評価項目3rdG:Ver.2.0の運用が開始されます。引き続き、日本の医療の質向上を支援する組織として、改善活動を支援してまいります。また、バックナンバーはホームページで公開しておりますので、ぜひご覧ください。

評価機構

NEWS LETTER

2018年3月1日発行
(奇数月1日発行)

発行：公益財団法人日本医療機能評価機構(略称：評価機構)
発行責任者：河北 博文
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1丁目4番17号 東洋ビル
TEL：03-5217-2320(代) / (編集：総務部情報企画課) 03-5217-2335
<https://jqcqh.or.jp/> e-mail:info@jqcqh.or.jp
本誌掲載記事の無断転載を禁じます